

京都・長岡宮・京跡

1 所在地

京都府向日市鶏冠井町一ノ坪・森本町下森本・鶏冠井町極楽寺・鶏冠井町沢ノ東

2 調査期間

長岡宮東辺官衙・東一坊大路 一九八八年(昭63)
五月～八月、東辺官衙・左京一条大路 一九八八年七月、二条大路・東二坊大路交差点 一九八八年五月～八月、左京二条二坊六町 一九八九年一月～三月

3 発掘機関

(勸向日市埋蔵文化財センター)

4 調査担当者

中塚 良・山中 章・國下多美樹



(京都西南部)

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 長岡京期 (七八四～七九四年)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一九八八年度に長岡宮・京跡で木簡の出土した調査は九件あり(宮域二件、左京五件、右京二件)、その発掘

調査は四機関にわたっている。本稿は、(勸向日市埋蔵文化財センター)が担当した四件の報告である。

一 東辺官衙・東一坊大路(宮第二二〇次調査7AN3D地区)

長岡京跡は山城盆地の北西部、桂川右岸に位置する。宮域は、盆地西縁の向日丘陵の東方に広がる低位段丘上に、また京域の大半は、桂川及びその支流によって形成された沖積低地に立地する。本調査地は、長岡宮を載せる低位段丘をすぐ西側にひかえた標高一四・六mの沖積低地に位置する。調査地東半部は東一坊大路路面に、西半部は東辺官衙に比定されている。

調査の結果、東一坊大路東西両側溝SD二二〇一三・二二〇〇三、宮の東辺を画する大垣とみなし得る築地状遺構SX二二〇一二、土塙四基等を検出した。東一坊大路の路面幅は二三・二mである。

本簡は東一坊大路東側溝SD二二〇一三の中層から一点出土した。本調査地の主な遺物には、軒瓦・木器(栓形・漆器碗)・土師器・須恵器・緑釉火舎・習書墨書土器・銭貨等がある。特に注目されるのは、SD二二〇〇三出土の木製刀形で、先端部に「尾□」と線刻を施す。

二 東辺官衙・左京一条大路(宮第二二四次調査7AN2B地区)

調査地は、宮の東辺及び東一坊大路と一条大路の交差点付近に位置する。調査の結果、一条大路南側溝に相当する溝SD二二四〇一を検出した。溝は幅一・二m、深さ〇・四mを測る。小規模な調査

のため、長岡京期の遺構は他に検出し得なかった。木簡はS D二一四〇一より一点出土した。他に同溝からは、長岡京期の土師器、須恵器、瓦、木製品が出土している。なお、一条大路関連遺構の検出は、今回が初めてである。

三二条大路・東二坊大路交差点(左京第一九六次調査7 ANEGZ地区)

調査地は左京三条二坊十六町北東部と左京三条三坊一町北西部およびその間の交差点に相当する。主な検出遺構には、二条大路路面SF一九六〇〇、二条大路南北両側溝SD一九六〇四・一九六〇三、東二坊大路路面SF一九六〇五、東二坊大路東西両側溝SD一九六〇二・一九六〇一、柵列、溝、土壇、柱穴等がある。東二坊大路西側溝には、二条大路南側溝との合流地点に側板で護岸施設を設ける。二条大路は側溝心々間約九・七m、東二坊大路は約二四mの規模を有し、二条大路が小路級の規模であることが再確認できた。また、二条大路南北両側溝は、東二坊大路路面を横断せず、東西両側溝に流れこんでおり、東二坊大路を二条大路に優先して通していることが明らかとなった。

8 木簡の釈文・内容

東二坊大路西側溝からは、墨書土器をはじめ多くの遺物が出土している。木簡は、二条大路南側溝と東二坊大路西側溝の合流点において、断簡一点が出土した。二条大路南側溝は遺物量が少ないが、主な共伴遺物として、中房付近に「言」字を押印した单弁蓮華文軒

- (1)

白米五斗
〔延力〕
曆八年四月廿九日

(161) $\times 24 \times 3$ 059

二 長岡宮東辺官衙・左京一条大路

(1) ・ □□□ □

・ □□□

(120) × (10) × 4.5 081

墨がうすく、表裏とも文字の一部がかろうじて残存するのみ。

三 二条大路・東二坊大路交差点

(1) ・ □□□

・ 『断断□』

(31) × 21 × 1 081

上下端折れ、表裏異筆で、裏は習書と思われる。

四 左京二条二坊六町

(1) ・ 寺石工佐伯息人 (穿孔)

・ 五年七月十四日岳田王。 (穿孔)

(262) × 27 × 4 019

(2) ・ 「 史生一人 一升五合 直丁

□□ □□

・ 「『勘書生 (県カ) □継成』

(222) × (20) × 5 019

(3) 「子綿岡成」

112 × 20 × 3 051

(4) 「> □□□」

88 × 19 × 3 032

(5) □□□□

(84) × (7) × 7 081

(6) × 牛勝」

(84) × 20 × 2 059

(7) 「石

(93) × 21 × 5 019

(1)~(5)は溝SD一三〇一—A(延暦六年前後堆積)、(6)は溝SD一三〇一—B(延暦九年後半頃埋立)出土、(7)は表採である。

(1)は、上端が欠損するがほぼ原形を保つ短冊型。下端に穿孔。太政官の造営関係木簡の一つ。寺石工佐伯息人は、既に長岡京木簡No. 一に「造大臣曹司所：息人」、No. 七に「工息人」と記す人物と同一人であろう。これらの木簡は延暦八年のものと推定されている。本簡によって、佐伯息人は東大寺所属の石工として、初期の長岡京造営に派遣され、以来変らず太政官関係の造営に従事し続けたことが明らかとなった。なお、本簡の日付(延暦)五年七月十四日は、『続日本紀』延暦五年七月丙午条に「太政官院成、百官始就朝座焉」と記す太政官院完成の僅か五日前に当り、本簡の性格に興味がもたれる。岳田王は、『日本後紀』延暦二四年二月甲寅条の任官記事に「從五位下岳田王」と記す人物とおそらく同一人であろう。

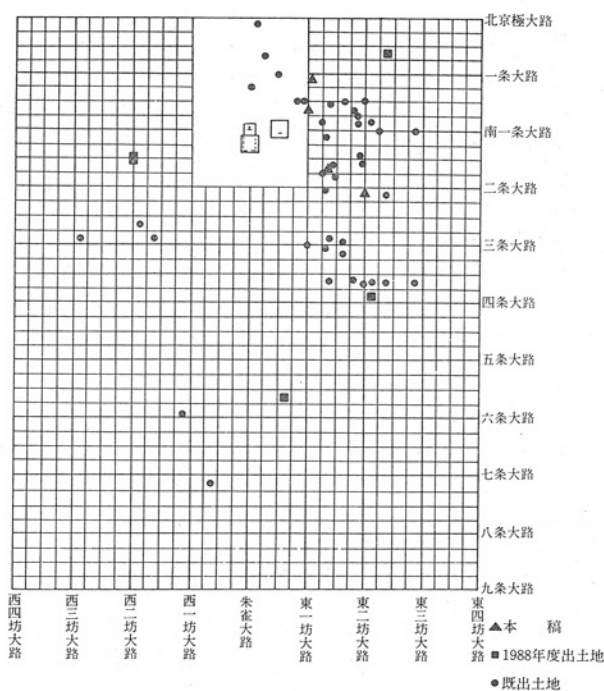
(3)と(6)は、先端を尖らせた小型の付札状木簡で、一人の人名を記す。(6)牛勝は、既に同溝SD一三〇一—Bからほぼ同形態で出土し

た長岡京木簡No.二四六・二四七に記す「小縄牛勝」である。

9 関係文献

向日市教育委員会・勅向日市埋蔵文化財センター『向日市埋蔵文化財調査報告書―第25集―』(一九八九年)

(一) 中塚 良 二、四 山中 章
(三) 國下多美樹 釈文 清水みき



長岡京跡木簡出土地点図

木簡研究 第七号

巻頭言―刀筆の吏―

一九八四年出土の木簡

土田直鎮

概要 平城宮・京跡 平城京跡 奈良女子大学構内遺跡 法貴寺遺跡

藤原宮跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 百々遺跡

今里遺跡 平安京左京八条三坊二町 平安京左京九条二坊十三町

水走遺跡 西ノ辻遺跡(1) 西ノ辻遺跡(2) 坪井遺跡 忍ヶ丘駅前遺跡

遺跡 普賢寺遺跡 大庭北遺跡 輕里遺跡 堺環濠都市遺跡 池田寺

遺跡 道場塩田遺跡 新方遺跡 川岸遺跡 倉見遺跡 前東代遺跡

赤堀城跡 朝日西遺跡 清洲城下町遺跡 沓掛城跡 吉田城三ノ丸

跡 坂尻遺跡 秋合遺跡 郡遺跡 神明原・元宮川遺跡 北条泰時

・時頼邸跡 千葉地遺跡 千葉地東遺跡 藏屋敷遺跡 小敷田遺跡

大津城跡 上永原遺跡 野々宮遺跡 野瀬遺跡 小谷城下町遺跡

尾上遺跡 北方田中遺跡 永田遺跡 膳棚B遺跡 御前清水遺跡

仙台城三ノ丸跡 市川橋遺跡 多賀城跡 比爪館遺跡 大浦遺跡

弘田柵跡 馬場屋敷遺跡 百間川当麻遺跡 鹿田遺跡 草戸千軒町

遺跡 西庄II遺跡 井上薬師堂遺跡 荒堅目遺跡

一九七七年以前出土の木簡(七)

平城宮跡(第三九次)

公式様文書と文書木簡

中国における最近の漢簡研究

英国出土のローマ木簡

木簡史料紹介―牛札―

彙報

頒価 三八〇〇円 二四〇〇円

早川庄八 大庭 脩
田中 琢 石上英一